

## フリーアドレス化、電話会議システムからの脱却にJabra驚きの通話品質と手軽さで会議の生産性を向上させて物理セキュリティで管理も楽になるスピーカーフォン



2021年に東京本社フリーアドレス化を実施し、固定電話からソフトフォンの移行へ舵を切ったオリックス生命保険株式会社。併せてそれまで使っていた電話会議システムをWEB会議用スピーカーフォンに刷新することになり、そこで選ばれたのがPCにUSBを差すだけで接続できるビジネス用高性能スピーカーフォン『Jabra Speak 710』と、定員20名ほどの大会議室にも使える据え置き型スピーカーフォン『Jabra Speak 810』の2機種だ。

### 電話会議システムからの脱却のために導入したら会議の生産性そのものが向上し、社内の必需品に

本社機能を持つ拠点に計60台のSpeak 710と、計26台のSpeak 810を導入しているという同社。会議室の大きさにあわせて使い分けており、定員10名ほどの会議室にはSpeak 710を据え置き、それ以上の大きな部屋にはSpeak 810を都度貸し出しているという。

「そもそもJabra導入のきっかけは、フリーアドレス化に伴う固定電話からソフトフォンへの移行でした」

そう話すのは、同社総務部ファシリティチーム長の阿部さん。

「会議はそれまで『電話会議システム』を利用していましたが、ソフトフォン移行に伴いWEB会議用スピーカーフォンを導入することに。IT担当が各メーカーの製品を比較した結果、音声品質、接続時の認識スピード、物理セキュリティ、PCとの互換性など、必要な要素を全て揃えていたのがJabraでした」

阿部さんは、Jabraが会議の生産性向上に大きく貢献したと話す。

「会議にオンラインの参加者がいるのが当たり前になった今、社員だけでなくお客さまやステークホルダーとも、常にJabraを通して会議をしているような状況です。『Jabraがないと会議しづらい』というのが皆の共通の感覚。Jabraがなければ会議の生産性も上がらなかったとさえ思います」

何がそれほどまでに皆の心を掴んでいるのか？その秘密の1つは、優れた音声品質にあった。

#### COMPANY

Customer : オリックス生命保険株式会社  
Website : <https://www.orixlife.co.jp/>  
Country : 日本

#### PROFILE

1991年4月にオリックス・オマハ生命保険株式会社として設立し、1993年オリックス生命保険株式会社に社名変更。創業期は法人向け商品を主力に成長を続け、2006年からは個人向け市場に進出。これにより契約件数が飛躍的に伸び、急成長を遂げる。「お客さまがオリックス生命を選んで良かったとご納得・ご満足されるのが一番大切」という考えから、お客さま本位の業務運営を徹底。お客さまの立場に立った生命保険の商品・サービスのあり方を追求している。

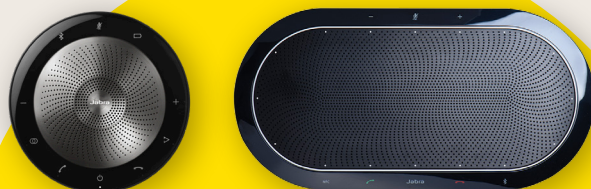
#### SOLUTION

##### Speak 810

■商品番号 [MS]7810-109 / [UC]7810-209

##### Speak 710

■商品番号 [MS]7710-309 / [UC]7710-409





## 「え!?!」と聞き返しばかりで最悪の空気だった会議が 驚きの高音質とサッと使える手軽さで様変わりした

「正直、音質の良さには驚かされました」

阿部さんはSpeakの音声品質をそう評価してくれた。

「以前までの電話会議システムのデバイスは、音質も集音性も悪く、『さ行』と『た行』の判別がつかなくなったり、マイクに声が届かなかったり、音がベタッとして怒鳴られているように聞こえたり、音が割れて聞き取れないという場面が頻繁にありました。Speakなら小さな声でも聞き取りやすく、部屋の隅の人の声まで集音します。以前は『もう一回言ってください』と会議中に何度も聞き返しがあり、その度に会議のムードが悪くなっていましたが、Speakに変えてからはそれらが解消され、会議が格段にスムーズになりました!」

そう絶賛する阿部さんだが、実は当初Speak 710の実用性を疑っていたという。

「スペック上の数字ではSpeak 710の対応人数は6名までとあったので、大丈夫かと心配していました。でも実際に試してみると定員12名ほどの会議室でテストしても全く問題なし。良い意味で裏切られました」

またSpeakは、その使いやすさも好評の理由だという。

「WEB会議の頻度が増え、今では会議室が取り合いの状態に。だからこそUSBを差すだけで会議ができるSpeakの手軽さが好評。準備も撤収も簡単に、時間を最大限活用できます!」

## 純正OPの物理セキュリティで据え置きも安心! 操作も簡単で呼び出しゼロ!管理コスト激減!

一方で管理側にはどういったメリットがあるのか?それについては同社総務部ファシリティチームの眞島さんが答えてくれた。

「管理を担う総務としては、物理セキュリティが純正オプションにあったのは大きかったです。スピーカーフォンのような小さいデバイスは紛失リスクがつきものですから、固定方法については何度も議論しました。その解決策としてJabraは手軽でスマートでしたね」

また眞島さんは、Speakは使い方が簡単だからこそユーザーからの問い合わせも激減したと話す。

「以前の電話会議デバイスは認証作業が難しく、会議のたびに呼び出されることもしばしば。Jabraに変えてからは『使い方がわからない』と言われたことがなく、管理がだいぶ楽になりましたね。シンプルでちゃんと使えるというのは、当たり前のことですが管理する側としてはとてもありがたいです」

眞島さんは、最後に笑ってこう付け足した。

「Jabraの人気はすごく、会議にひっぱりだこの状態。現場から言われるJabraに関するクレームは『台数を増やしてほしい』だけです!」

金融というセキュリティの厳しい世界で、安全性とフレキシブルな働き方の両立を模索する同社の取り組みに、Jabraは欠かせない存在として重宝されているようだ。

In cooperation with



### Jabra Case Study - オリックス生命保険株式会社

左:総務部 ファシリティチーム アシスタントマネージャー 眞島 卓 様  
右:総務部 ファシリティチーム長 阿部 和行 様

